



## 感情的に叱って後悔する

お話：高祖常子

保育士／育児情報誌 miku 編集長／NPO 児童虐待防止全国ネットワーク理事

子どもはしばしば、親が「この場ではダメ」と思う行動をします。それをやめさせようとして、つい感情的な言葉で叱ってしまい、「言い過ぎた」とか「ひどい言い方だったな」と後悔。自分でもイヤなこんな後悔を少なくするには…？

### 叱り方も、少しずつ上手になればよい

#### ● 反省はしても、後悔し過ぎて落ち込まないように

感情的に叱ることは、よくはないですが誰でもついやってしまいますね。とっさに気持ちが高ぶって、怒鳴ったり手を上げてしまったり。でも、冷静になれば親自身がイヤな気持ちになったり、ひどく言い過ぎたと後悔したりします。感情的に叱って「やっちゃった」と思ったら、後悔して落ち込み過ぎず、次に生かせばいいのです。親も子どもともに成長していくんだと、少しゆったり構えましょう。

#### ● なぜ感情的に叱ってしまったのかを考える

反省するときは、なぜ感情的に叱ってしまったのかを考えることがポイント。子どものふるまい自体は、その発達時期

に見られる当たり前の行動が多いもの。子どもがよくない行動をした場合に、きっぱり「それはいけない」「ダメ！」と言うことは必要です。そして子どもにも、その行動をした気持ちや理由があるはず。その気持ちを受け止めた上で、「なぜ、そのふるまいがよくなかったのか」説明しましょう。

感情的に叱ってしまうときは、親自身に精神的な余裕がない場合が多いのではないのでしょうか。親が疲れている、時間に追われているなど、気持ちの許容範囲が狭くなっていると、子どものその場でのふるまいではなく、子ども自身を否定したり、威圧してコントロールするような叱り方をしてしまうことがあるのです。

### 「親の顔を見て行動する」のではなく、自分で考える子に

#### ● 罰で恐怖を与えると、なぜ叱られたのかが理解できない

子ども自身を否定したり、条件をつける叱り方は、例えば「〇〇できないお前なんかうちの子ではない」などの言葉で傷つけたり、声を荒げたり、叩いたりして、子どもに恐怖を与えるような叱り方です。

罰を与えることで子どもの行動をコントロールしようとすると、罰が怖いからその場では子どもは言うとおりにしますが、また同じようなことを繰り返します。それは、なぜ叱られたのか、自分のふるまいの何がいけなかったのか、その場にふさわしい行動とはどんなことかなどを考える習慣がつかないからです。威圧的に接していると、子どもは恐怖心から親の顔を見て行動するようになります。



#### ● 親がコントロールするのではなく、子どもにも考えさせる叱り方を

幼い子にも、親が思うよりずっと考える力があります。でも、それにはまず親が子どもの気持ちを受け止めることが大事。例えば、2～3歳ぐらいになれば、友達がおもちゃを借りたがっているのに貸してあげない場面で、「このおもちゃで遊びたいよね」などと子どもの感情や思いを受け止めると、「自分は大事にされている」と感じ、親の言葉を受け入れやすくなります。そして、「でも、〇〇ちゃんもそれで遊びたいんだって。どうしようか？」などと相手の気持ちを伝えて問かけると、「じゃあもう少し遊んだら貸してあげる」などと、考えてふるまうようになっていきます。



子どもをしつけなければ、子どもの困ったふるまいをコントロールしなければと考えるのではなく、子どもの気持ちに寄り添い、一緒に考えることが大切です。子どもを上から威圧してコントロールするのではなく、気持ちや考えを引き出して一緒に問題を解決していくように接しましょう。

子どもをしつけなければ、子どもの困ったふるまいをコントロールしなければと考えるのではなく、子どもの気持ちに寄り添い、一緒に考えることが大切です。子どもを上から威圧してコントロールするのではなく、気持ちや考えを引き出して一緒に問題を解決していくように接しましょう。

医療費が高額になったら

組合に限度額適用認定証の交付申請を行い、病（医）院等の窓口で提示することで高額療養費の現物給付が受けられます。（乳幼児医療等の助成を受けている方は、窓口で認定証を提示しない場合、医療費助成を含め現物給付が受けられないことがありますので、ご注意ください。）